

旧愛知県岡崎師範学校武道場 平成25年12月24日登録

登録基準：造形の規範となっているもの

登録理由：国道1号線の北側に位置し、学校敷地内の北側に建つ。鉄筋コンクリートや鉄骨などの新しい技術と既存である木造の技術の高い技術で融合させた建物。ゼツェーションやアール・デコの影響が見られ、意匠的にもレベルが高い。

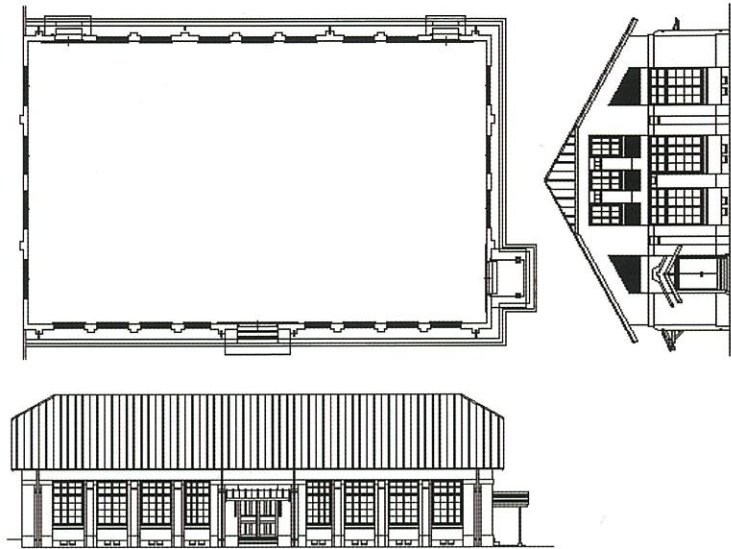
所在地：岡崎市六供町八貫1-1

構造：鉄筋コンクリート造平屋建、鋼板瓦葺

建築面積：427㎡

建築年代：大正15年(1926)建築

昭和41年(1966)改修



平面・立面図

旧愛知県岡崎師範学校武道場の歴史

明治5年(1872)の「学制」発布により、全国の大学区毎に「師範学校」が設立され、明治10年までに官立の師範学校は府県に移管されました。

明治30年(1897年)の「師範教育令」制定により複数の設置が認められたことを受け、愛知県ではそれまでの「愛知県師範学校」を「愛知県第一師範学校」とし、明治32年に新たに「愛知県第二師範学校」を岡崎の地に設立しました。明治36年までには現在地に校舎・寄宿舎・附属小学校が完成しました。大正12年には「愛知県岡崎師範学校」、昭和18年には文部省直轄の「愛知県第二師範学校」となりました。

岡崎師範学校の時代に剣道部が全国各地の大会で優勝するなどの活躍が評価され、大正15年に専用の武道場が建設されました。その後、学校の変遷過程により、使用方法も変わり、現在では「愛知教育大学附属特別支援学校」の作業実習棟として使用されています。



外観

旧愛知県岡崎師範学校武道場の建築的特徴

関東大震災を背景に、耐震・耐火のために鉄筋コンクリート造が求められたものの、武道場の大空間を鉄筋コンクリート造でつくる技術は未習熟であり、壁面までを鉄筋コンクリート造で建て、屋根の架構については習熟していた木造トラスに鋼材を組み合わせた混構造となったと考えられます。

設計は愛知県営繕課であり、鉄筋コンクリート造の躯体に木材と鋼材で構成されるトラスの小屋組が載る構造は、他県に例が見られない構造で、独自性の高い建築です。

内外部の意匠には当時流行したゼツェーション様式や、アール・デコの影響が感じられます。



木材と鋼材の混構造トラス



アール・デコ調の換気口